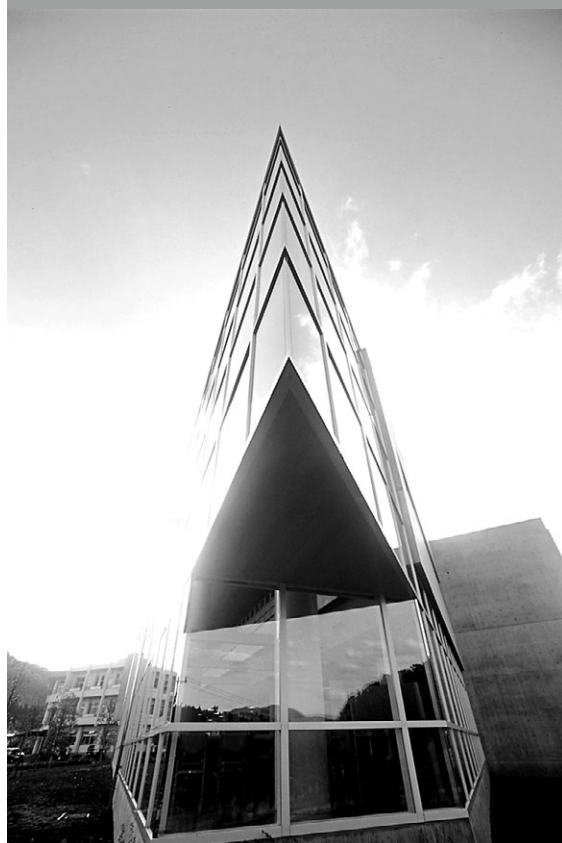


JIN-AI UNIVERSITY
2019 SYLLABUS

令和元年度
大学院
シラバス



目 次

<基礎科目群>

心理学研究法特論	大森 慈子	1
臨床心理学研究法特論	石原 宏	3
臨床心理学特論 I	森 俊之	4
臨床心理学特論 II	西村 則昭	6
臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)	西村 則昭	8
臨床心理面接特論 II	渡辺 克徳・三脇 康生	10
臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)	稲木康一郎・渡辺 克徳	12
臨床心理査定演習 II	吉水ちひろ	14
臨床心理基礎実習 I	吉水ちひろ・坂井 祐円	16
臨床心理基礎実習 II	渡辺 克徳・坂井 祐円	17

<基幹科目群>

心身医学特論	岸本 寛史	19
発達心理学特論	竹村 明子	21
教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	後藤 智子	23
社会病理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	三脇 康生・松嶋 健	25
家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における、心理支援に関する理論と実践)	森 俊之	27
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	三脇 康生	29
障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	水田 敏郎	31
産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	山本 雅代	33
心理教育学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	杉島 一郎	35
人間学特論	田代 俊孝・坂井 祐円	37

<応用科目群>

グループアプローチ特論	鎌田 道彦	39
学校臨床心理学特論	倉光 修	41
心理療法特論	千野美和子	43
臨床心理実習 I (心理実践実習)	稲木・三脇・森・吉水・渡辺	45
臨床心理実習 II (スーパービジョンプログラムを含む)	森 俊之	47

<研究指導科目>

臨床心理研究演習	森・三脇・水田・渡辺	48
----------	------------	----

心理学研究法特論			担当教員	大森 慈子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-RM-2111	2単位	1年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学に関する研究能力の基礎を培う					

授 業 の 内 容					
心理学研究法への理解を深めるためには、心とは何か、心理学とは何か、そもそも研究とは何かについて考える必要がある。これらをふまえた上で、授業では、問題意識の芽生えから実践までにいたる心理学研究の方法論について、その理論と具体的手法を解説する。観察法、実験法、検査法、調査法といった代表的な研究法のほかに、事例的な研究法も含め、それぞれの特徴と限界を知り、自らの研究をすすめる足掛かりとする。					
授 業 の 達 成 目 標					
心理学研究法の内容と特徴について理解する。 自らのテーマに対する研究能力を養う。					
授業の計画及び授業外の学習方法					
<p>第1回：心理学における研究法の重要性（1） 事前学習：自身が行ってきた研究の方法を説明できるようにまとめておく。(2時間) 事後学習：心理学の様々な研究法について、知っている範囲内で整理しておく。(2時間)</p> <p>第2回：心理学における研究法の重要性（2） 事前学習：心理学における実験法の歴史を概観しておく。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめ、わからないところを調べてまとめておく。(2時間)</p> <p>第3回：心理学における研究法の重要性（3） 事前学習：心理学における調査法の歴史を概観しておく。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめ、わからないところを調べてまとめておく。(2時間)</p> <p>第4回：いろいろな研究法の具体例と特徴（1） 事前学習：自身が行ってきた研究方法の特徴をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめ、わからないところを調べておく。(2時間)</p> <p>第5回：いろいろな研究法の具体例と特徴（2） 事前学習：自身が行ってきた研究方法の問題点をあげておく。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめ、わからないところを調べておく。(2時間)</p> <p>第6回：いろいろな研究法の具体例と特徴（3） 事前学習：自身が行ってきた研究方法の改善案を考えておく。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめ、わからないところを調べておく。(2時間)</p> <p>第7回：いろいろな研究法の具体例と特徴（4） 事前学習：ケーススタディの諸問題をとらえておく。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめ、わからないところを調べておく。(2時間)</p> <p>第8回：研究テーマと研究計画の関係（1） 事前学習：自身が行う研究計画における方法案を立てておく。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめ、わからないところを調べておく。(2時間)</p> <p>第9回：研究テーマと研究計画の関係（2） 事前学習：自身が行う研究計画における方法案に修正を加える。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめ、わからないところを調べておく。(2時間)</p> <p>第10回：研究テーマと研究計画の関係（3） 事前学習：自身が行う研究計画における結果分析の方法を考える。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめ、わからないところを調べておく。(2時間)</p> <p>第11回：研究テーマと研究計画の関係（4） 事前学習：自身が行う研究計画の全体像をまとめる。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめ、わからないところを調べておく。(2時間)</p> <p>第12回：研究報告のしかたと問題点（1） 事前学習：自身が行った研究の論文執筆における問題点をまとめる。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめ、わからないところを調べておく。(2時間)</p>					

第13回：研究報告のしかたと問題点（2）

事前学習：自身が行った研究の抄録作成における問題点をまとめる。（2時間）

事後学習：授業の内容をまとめ、わからないところを調べておく。（2時間）

第14回：研究報告のしかたと問題点（3）

事前学習：自身が行った研究の学会発表用ポスターまたはPPTを作成する。（2時間）

事後学習：授業の内容をまとめ、わからないところを調べておく。（2時間）

第15回：まとめ

事前学習：自身の研究計画を仕上げる。（2時間）

事後学習：授業の全体的な内容を見直す。（2時間）

成績評価方法

レポート（50%）、平常点（50%）

平常点は、授業への参加状況や受講態度などを総合して判断します。

成績評価基準

心理学研究法の内容と特徴について理解できているか。

自らのテーマに対する研究能力が備わっているか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。

参考図書は、適宜紹介する。

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学研究法特論			担当教員	石原 宏	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-RM-2121	2単位	1年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学に関する研究能力の基礎を培う					

授 業 の 内 容					
事例研究をはじめとして、臨床心理学の研究法は複雑で多様である。そこにおける独特の実証の方法、資料収集の方法、論文執筆の方法等について、講義をおこなう。					
授 業 の 達 成 目 標					
臨床心理学の論文の仮説設定や構成ができるようになる。					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
<p>第1回：臨床心理学における研究とは 事前学習：参考図書(1)を読み臨床心理学の研究について概要を把握すること。参考図書(2)を読み事例研究について概要を把握すること。また、受講生自身がこれまでにに行った研究について説明できるように準備すること。(30時間)</p> <p>第2回：受講生のこれまでの研究の紹介</p> <p>第3回：「研究テーマ」と「目的」の関連</p> <p>第4回：「目的」と「方法」の関連</p> <p>第5回：臨床心理学の研究法(1)量的研究 事後学習：授業の内容を踏まえ、受講生自身が今後行いたい研究の「研究テーマ」と「目的」について記述してみる。(2時間)</p> <p>第6回：臨床心理学の研究法(2)質的研究</p> <p>第7回：臨床心理学の研究法(3)データ収集のための種々の方法</p> <p>第8回：臨床心理学の研究法(4)質的データの分析方法：GTAなど</p> <p>第9回：臨床心理学の研究法(5)事例研究法</p> <p>第10回：臨床心理学の研究法(6)研究倫理 事後学習：授業の内容を踏まえ、臨床心理学の研究における事例研究法の位置づけについて受講生自身の考えを記述してみる。(2時間)</p> <p>第11回：「データ」と「結果」の関連</p> <p>第12回：「結果」と「考察」の関連</p> <p>第13回：「問題」部分の作成(1)研究テーマの設定</p> <p>第14回：「問題」部分の作成(2)先行研究の検索</p> <p>第15回：「問題」部分の作成(3)論文としての問いから方法論へ 事後学習：授業の内容を踏まえ、受講生自身が関心を持つ研究テーマについて、具体的な研究計画を立て、先行研究を引きながら、「問題」「目的」「方法」について記述してみる。(26時間)</p>					
成 績 評 価 方 法					
レポート(80%) 平常点(20%) ※平常点は、授業中の発言内容などから評価する。					
成 績 評 価 基 準					
臨床心理学における論文の構成の仕方を理解し、問題・目的・方法を適切な形で執筆することができるか。					
テ キ ス ト 、 参 考 図 書					
(1) 丹野義彦編『臨床心理学全書5 臨床心理学研究法』誠信書房 (2) 斎藤清二『事例研究というパラダイム』岩崎学術出版社					
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)					
各自で自分のこれまでの研究(論文等)について、事前に振り返っておいてください。					
オ フ ィ ス ア ワ ー					
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。					

臨床心理学特論 I			担当教員	森 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2111	2 単位	1 年前期	講義	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容					
臨床心理学の基礎科目として、臨床心理学とはどのような学問であるのか、臨床心理的支援とはどのようなものなのかについて、これまでの歴史や現状を理解し、今後について考察する。					
授 業 の 達 成 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床心理学の学問的基盤について理解する。 ・ 臨床心理学的支援の現状と課題（法制度、要支援者、支援法、倫理など）について理解する。 					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
<p>第1回：臨床心理学とは 事後学習：授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめる。(4時間)</p> <p>第2回：臨床心理学の歴史 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)</p> <p>第3回：臨床心理学と資格制度 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)</p> <p>第4回：臨床心理学の対象論 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)</p> <p>第5回：臨床心理学的援助論① 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)</p> <p>第6回：臨床心理学的援助論② 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)</p> <p>第7回：臨床心理学的援助論③ 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)</p> <p>第8回：臨床心理学的援助論④ 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)</p> <p>第9回：臨床心理学的援助論⑤ 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)</p> <p>第10回：医療領域における専門性と課題 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)</p>					

第11回：教育領域における専門性と課題

事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく（3時間）

事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。（1時間）

第12回：福祉領域における専門性と課題

事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく（3時間）

事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。（1時間）

第13回：司法領域における専門性と課題

事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく（3時間）

事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。（1時間）

第14回：産業領域における専門性と課題

事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく（3時間）

事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。（1時間）

第15回：まとめ

事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく（3時間）

事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。（1時間）

成績評価方法

レポート課題（60%）、平常点（40%）

（平常点は、授業への参加状況、討論内容により総合的に評価する。）

成績評価基準

- ・臨床心理学の学問的基盤について説明できるか。
- ・臨床心理学的支援の現状と課題（法制度、要支援者、支援法、倫理など）について説明できるか。

テキスト、参考図書

参考図書

臨床心理学全書1 臨床心理学原論 大塚義孝（編） 誠信書房2004

そのほか、授業中に適宜、紹介する

その他（受講上の注意）

自発的に発言し、主体的な講義への参加を心がけてほしい

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学特論Ⅱ			担当教員	西村 則昭	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2112	2単位	1年後期	講義	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容					
臨床心理士の拠って立つ学問としての臨床心理学とはどのような学問であるのか、またあるべきなのか、その全体像を考える。					
授 業 の 達 成 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床心理士の仕事とは、基本的人権を尊重し、専門家としての知識と技能を人々の福祉の増進のために用いるように努める仕事であることを理解する。 ・ 臨床心理学とは、近代的主体を範(モデル)として、有効な心理的援助のあり方を科学的=実証的に探求する学問でなくてはならないという昨今主流となりつつある考え方を踏まえつつ、より広い視野に立って人間の心を捉えることができる。 ・ 多様なクライアントのニーズに対応すべき、これからの心理臨床の専門家が依拠すべき臨床心理学とは、どのようなものであるべきか、その全体像を持つことができ、実際のさまざまな領域の臨床心理士のさまざまな活動を、その全体像の中に位置づけることができる。 					
授業の計画及び授業外の学習方法					
<p>第1回：オリエンテーション(臨床心理士と公認心理師) 事前学習：ディスカッションに備えて、臨床心理士と公認心理師との違いについて、自分の考えをまとめておくこと。(2時間) 事後学習：ディスカッションを振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。(2時間)</p> <p>第2回：学校臨床(不登校)1 事前学習：配布する資料(事例報告)を熟読し、質問事項を考えておくこと。(2時間) 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)</p> <p>第3回：学校臨床(不登校)2 事前学習：配布する資料(事例考察)を熟読し、質問事項を考えておくこと。(2時間) 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)</p> <p>第4回：学校臨床(反社会的行動) 事前学習：配布する資料(事例報告)を熟読し、質問事項を考えておくこと。(2時間) 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)</p> <p>第5回：学校臨床(教員研修) 事前学習：配布する資料(事例報告)を熟読し、質問事項を考えておくこと。(2時間) 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)</p> <p>第6回：福祉領域の臨床(虐待)1 事前学習：配布する資料(事例報告)を熟読し、質問事項を考えておくこと。(2時間) 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)</p> <p>第7回：福祉領域の臨床(虐待)2 事前学習：配布する資料(事例考察)を熟読し、質問事項を考えておくこと。(2時間) 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)</p> <p>第8回：自助グループのロールプレイ1 事前学習：配布する資料(摂食障害者の体験記)を熟読し、質問事項を考えておくこと。(2時間) 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)</p>					

- 第9回：自助グループのロールプレイ2
 事前学習：前回の資料を参考に、自分が演じる摂食障害者のイメージを作り上げておく。(2時間)
 事後学習：実習体験を振り返り、考えたことをレポートにまとめておく。(2時間)
- 第10回：精神病者の地域援助
 事前学習：DSMの統合失調症の項目を熟読し、また「べてるの家」について、インターネット等で調べておくこと。(2時間)
 事後学習：ディスカッションを振り返り、考えたことをレポートにまとめておく。(2時間)
- 第11回：マインドフルネスと仏教の考え方
 事前学習：配布する資料を熟読し、また道元禅師について、インターネット等で調べておくこと。(2時間)
 事後学習：実習体験を振り返り、考えたことをレポートにまとめておく。(2時間)
- 第12回：精神病者の個人心理療法
 事前学習：配布する資料(事例研究)を熟読し、質問事項を考えておくこと。(2時間)
 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
- 第13回：クライアントの発病
 事前学習：配布する資料(事例研究)を熟読し、質問事項を考えておくこと。(2時間)
 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
- 第14回：自殺の危機への対応
 事前学習：配布する資料(事例研究)を熟読し、質問事項を考えておくこと。(2時間)
 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
- 第15回：親面接
 事前学習：配布する資料(事例研究)を熟読し、質問事項を考えておくこと。(2時間)
 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
- 授業でディスカッションし学んだことを、内部および外部実習の経験と重ね合わせ、深く考えるようにしてください。

成績評価方法

期末レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%)
 (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)

成績評価基準

- ・臨床心理士の仕事が、基本的人権を尊重し、専門家としての知識と技能を人々の福祉の増進のために用いるよう努める仕事であることが理解できているか。
- ・近代的主体を範(モデル)とする、人間の心に対する科学的=実証的アプローチの意義と限界を認識し、より広い視野で人間の心を捉えることができるか。
- ・臨床心理士のさまざまな活動を理解し、臨床心理学の全体像を持つことができ、内部および外部実習の経験をその全体像の中に位置づけることができるか。

テキスト、参考図書

こちらで準備する。また適宜伝える。

その他(受講上の注意)

質問はメールでも受け付けます(nisimura@jindai.ac.jp)。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)			担当教員	西村 則昭	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2121	2 単位	1 年前期	講義	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容	
臨床心理面接について、特に心理療法とは何かを学ぶ。	
授 業 の 達 成 目 標	
<ul style="list-style-type: none"> ・クライアントの人格、基本的人権を尊重し、その心に寄り添いながら、専門的知見に立って、クライアントを正確に見立て、的確に対応していくことができる。 ・心理臨床センターで実際に事例を担当し、心理療法演習 I・II において発表、討論をおこなうための、特に理論面での土台を作る。 ・DSM などの学派を超えた共通用語に習熟し、見立てをおこなったり、臨床場面におけるさまざまな現象を考えるために、それらを用いることができ、その上で精神分析などの特定の学派の考え方をを用いて、事例理解を深めることができる。 	
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
<p>第 1 回：オリエンテーション (心理療法とは何か)</p> <p>事前学習：本授業では、これから心理療法の実践を学んでいくのに際して、心理療法とは何かについて予備的なディスカッションをおこなうため、これまで学部で学んできたことをまとめておくこと。(2 時間)</p> <p>事後学習：本授業でのディスカッションを振り返って考えたことを、レポートにまとめること。(2 時間)</p> <p>第 2 回：インテーク面接</p> <p>事前学習：配布するインテーク面接に関する資料を読んでおくこと。(2 時間)</p> <p>事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)</p> <p>第 3 回：インテーク時の心理検査 (実習)</p> <p>事前学習：配布する心理検査に関する資料を読んでおくこと。(2 時間)</p> <p>事後学習：自分の検査結果を解釈し、自己理解を深め、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)</p> <p>第 4 回：箱庭療法 (実習)</p> <p>事前学習：配布する箱庭療法に関する資料を読んでおくこと。(2 時間)</p> <p>事後学習：実習結果を振り返り、自己理解を深め、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)</p> <p>第 5 回：神経発達障害の見立て (DSM-5 を読む)</p> <p>事前学習：配布する DSM-5 からの資料 (英文) を読んでおくこと。(2 時間)</p> <p>事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)</p> <p>第 6 回：神経発達障害児への心理的援助 (外部の専門家の招待講義)</p> <p>事前学習：配布する資料を熟読し、質問を考えておくこと。(2 時間)</p> <p>事後学習：本授業を振り返って学んだことを、レポートにまとめておくこと。(2 時間)</p> <p>第 7 回：神経症について (神経症とは何かを精神分析の観点から考える)</p> <p>事前学習：フロイトのハンス症例について、インターネット等で調べておくこと。(2 時間)</p> <p>事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)</p> <p>第 8 回：神経症者のユング的心理療法過程 (事例研究を読む)</p> <p>事前学習：配布する事例研究を熟読し、質問を考えておくこと。(2 時間)</p> <p>事後学習：ノートの見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)</p>	

- 第9回：箱庭を用いた心理療法（事例研究を読む）
 事前学習：配布する事例研究を熟読し、質問を考えておくこと。（2時間）
 事後学習：ノートの見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
- 第10回：神経症児の精神分析的な心理療法（事例研究を読む）
 事前学習：配布する事例研究を熟読し、質問を考えておくこと。（2時間）
 事後学習：ノートの見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
- 第11回：パーソナリティ障害の見立て（DSM-5を読む）
 事前学習：配布するDSM-5からの資料（英文）を読んでおくこと。（2時間）
 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
- 第12回：パーソナリティ障害の心理療法過程（事例研究を読む）
 事前学習：配布する事例研究を熟読し、質問を考えておくこと。（2時間）
 事後学習：ノートの見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
- 第13回：面接過程における問題（転移等）
 事前学習：配布する転移等に関する資料を読んでおくこと。（2時間）
 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
- 第14回：危機介入（自殺企図など）
 事前学習：配布する自殺等に関する資料を読んでおくこと。（2時間）
 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
- 第15回：まとめ（心理療法とは何か）
 事前学習：これまでのノートを見直し、心理療法とは何かを自分なりにまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：今回のディスカッションを通して考えたことを、レポートにまとめておくこと。（2時間）
- DSM-5（英語）を学んでいくので、授業で指名されたとき翻訳できるようにしておいて下さい。またこの授業で取り上げられた用語や概念について、もし不明な点があるなら担当教員に質問したり、自ら調べたりして、確実に自分のものとし、心理療法演習における討論をきちんと理解し、参加もできるようにして下さい。

成績評価方法

期末レポート（50%）、小レポート（30%）、平常点（20%）
 （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します）

成績評価基準

- ・クライアントの人格、基本的人権を尊重し、その心に寄り添う姿勢ができているか。
- ・DSM-5などの共通言語に習熟しているか。
- ・その上で、精神分析などの特定の学派の考え方をを用いて、事例理解を深めることができるか。

テキスト、参考図書

APA、DSM-5、American Psychiatric Publishing、2013。
 その他、授業の中で適宜紹介する。

その他（受講上の注意）

質問はメールでも受け付けます（nisimura@jindai.ac.jp）。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理面接特論Ⅱ			担当教員	渡辺 克徳、三脇 康生	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2122	2 単位	1 年後期	講義	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					
授 業 の 内 容					
本授業では臨床心理面接がどのように行われるか、その基本的な進め方や構造について、前期とは異なる視点（芸術療法、認知行動療法など）から、実践的に学ぶ。実際のケースや、すでに文献に紹介されている事例などを取扱い、事例からできるだけ多くのことを学ぶことを試みながら、臨床心理士としてのエッセンスを身につけていく。					
授 業 の 達 成 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の臨床心理面接の視点を理解し、カンファレンスや実際の臨床実習に活用できる。 ・ 芸術・表現療法の視点から心理的援助に関する理解を深め、カンファレンスや実際の臨床実習に活用できる。 ・ 認知行動療法の視点から、心理的援助に関する理解を深め、カンファレンスや実際の臨床実習に活用できる。 					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
第1回：認知行動療法とは (担当渡辺) 第2回：認知行動療法のプロセス (担当渡辺) 第3回：認知行動療法の基本技法 (担当渡辺) 第4回：認知行動療法の介入手続き (担当渡辺) 第5回：応用行動分析 (担当渡辺) 第6回：エクスポージャー法 (担当渡辺) 第7回：認知療法 (担当渡辺) 第8回：ブリーフセラピー① (担当渡辺) 第9回：ブリーフセラピー② (担当渡辺) 第10回：まとめ (担当渡辺) 第11回：芸術療法概論 (担当三脇) 第12回：ナタリーロジャースの方法論 (担当三脇) 第13回：サイコドラマ (担当三脇) 第14回：GIM (担当三脇) 第15回：震災とアートセラピー (担当三脇) 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向けることを心がけること。(各回2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(各回2時間)					
成 績 評 価 方 法					
授業内レポート(40%)、平常点(60%) (平常点は、授業への参加状況、討論内容など総合的に評価する。)					
成 績 評 価 基 準					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の臨床心理面接の視点を比較的の説明できるか。 ・ 芸術・表現療法の視点から、心理的援助について考察し、説明できるか。 ・ 認知行動療法の視点から、心理的援助について考察し、説明できるか。 					
テ キ ス ト 、 参 考 図 書					
適宜紹介					
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)					
第7回終了時にレポート1を提出する					

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)			担当教員	稲木 康一郎、渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2131	2 単位	1 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容					
臨床心理査定に関する基本的な知識について学ぶとともに、代表的な知能検査や発達検査、神経心理学検査、人格検査の理論と実践について学ぶ。					
授 業 の 達 成 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床心理査定の背景となる基礎理論について理解する。 ・ 代表的な発達・知能検査、神経心理学検査、人格検査について理解し、実践できる。 					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
<p>第1回：神経心理学検査のポイント・前頭葉機能①(WCST) 【担当：稲木】 事前学習：シラバスを熟読すること、また、検査用具とマニュアルの保管場所を確認すること(2時間)。 事後学習：レジュメ作成の担当を決めること、テキストの疑問点について調べること(2時間)。</p> <p>第2回：高次脳機能障害例・前頭葉機能②(WCST) 【担当：稲木】 事前学習：WCSTについて、マニュアルを読むこと(2時間)。 事後学習：WCSTについて、データを整理して解釈すること(2時間)。</p> <p>第3回：認知症スクリーニング①(HDS-R、MMSE) 【担当：稲木】 事前学習：HDS-Rについて、マニュアルを読むこと(2時間)。 事後学習：HDS-Rについて、データを整理して解釈すること(2時間)。</p> <p>第4回：認知症スクリーニング②(レーヴン色彩マトリックス) 【担当：稲木】 事前学習：RCPMについて、マニュアルを読むこと(2時間)。 事後学習：RCPMについて、データを整理して解釈すること(2時間)。</p> <p>第5回：記憶検査①(ベントン視覚記銘検査) 【担当：稲木】 事前学習：BVRTについて、マニュアルを読むこと(2時間)。 事後学習：BVRTについて、データを整理して解釈すること(2時間)。</p> <p>第6回：記憶検査②(ウェクスラ—記憶検査) 【担当：稲木】 事前学習：WMS-Rについて、マニュアルを読むこと(2時間)。 事後学習：WMS-Rについて、データを整理して解釈すること(2時間)。</p> <p>第7回：記憶検査③(ウェクスラ—記憶検査) 【担当：稲木】 事前学習：WMS-Rについて、マニュアルを読むこと(2時間)。 事後学習：WMS-Rについて、データを整理して解釈すること(2時間)。</p> <p>第8回：記憶検査③(ウェクスラ—記憶検査) 【担当：稲木】 事前学習：レポート作成を準備すること(2時間)。 事後学習：レポート作成を準備すること(2時間)。</p> <p>第9回：発達検査の理解①(遠城寺式乳幼児分析的発達検査) 【担当：渡辺】 事前学習：遠城寺式について、マニュアルを読むこと(2時間)。 事後学習：遠城寺式について、データを整理して解釈すること(2時間)。</p> <p>第10回：発達検査の理解②(新版K式発達検査) 【担当：渡辺】 事前学習：新版K式について、マニュアルを読むこと(2時間)。 事後学習：新版K式について、データを整理して解釈すること(2時間)。</p> <p>第11回：人格検査の理解①(抑うつ・不安に関する検査) 【担当：渡辺】 事前学習：POMSについて、マニュアルを読むこと(2時間)。 事後学習：POMSについて、データを整理して解釈すること(2時間)。</p> <p>第12回：人格検査の理解②(抑うつ・不安に関する検査) 【担当：渡辺】 事前学習：SDS、BDIについて、マニュアルを読むこと(2時間)。 事後学習：SDS、BDIについて、データを整理して解釈すること(2時間)。</p> <p>第13回：人格検査の理解③(MMPI) 【担当：渡辺】 事前学習：MMPIについて、マニュアルを読むこと(2時間)。 事後学習：MMPIについて、データを整理して解釈すること(2時間)。</p>					

第14回：人格検査の理解④ (MMPI) 【担当：渡辺】

事前学習：MMPIについて、マニュアルを読むこと（2時間）。

事後学習：MMPIについて、データを整理して解釈すること（2時間）。

第15回：人格検査の理解⑤ (投映法の基礎) 【担当：渡辺】

事前学習：レポート作成を準備すること（2時間）。

事後学習：レポート作成を準備すること（2時間）。

※第1回～第8回は稲木が、第9回から第15回は渡辺が担当する。

その授業で扱うテーマや心理検査について、授業前に各自で、参考書や検査マニュアル等を精読しておくこと。
学んだ心理検査について、自分なりに分析をしたり、お互いにロールプレイをするなどして実践活動に応用できるように努力すること。

成績評価方法

授業への受講態度および授業内での発表内容（40%）、心理検査を実践・分析して作成したレポート等（60%）によって総合的に評価する。

成績評価基準

- ・臨床心理査定背景となる基礎理論について説明できるか。
- ・授業で学んだ検査について理解し、実践できるか。

テキスト、参考図書

岡堂哲雄 編「臨床心理学全書 臨床心理査定学」誠信書房 2004年
下仲順子 編「臨床心理学全書 臨床心理査定技法（1）」誠信書房 2004年
皆藤章 編「臨床心理学全書 臨床心理査定技法（2）」誠信書房 2004年
小山充道 編著「必携 臨床心理アセスメント」金剛出版 2008年
村上宣寛・村上千恵子 著「改定臨床心理アセスメントハンドブック」北大路書房2008年
そのほか、随時、紹介する。

その他(受講上の注意)

各種の心理検査について、授業外での積極的な演習を期待するが、検査用紙・器具等の取り扱いには注意を払うとともに、被検査者のデータ管理や情報の守秘などについて厳重に注意すること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理査定演習Ⅱ			担当教員	吉水 ちひろ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2132	2単位	1年後期	演習	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容					
臨床現場で用いられる代表的な投射法検査について学び、中でも包括システムによるロールシャッハテストの実施法と解釈法の習得を目指す。さらに、『臨床心理査定演習Ⅰ』で学んだ知能テストやパーソナリティ・テストなどと合わせて、臨床場面で実施されるパーソナリティ・アセスメントの実際について理解を深める。					
授 業 の 達 成 目 標					
①演習で取り上げた各種のテストについて、その理論や適用、実施法について理解し説明できること。 また、代表的な検査法については試行して、実践で使用できるようになること。 ②ロールシャッハテストについては、施行手続きから、スコアリング、解釈まで理解し、実施できること。					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
<p>第1回：オリエンテーション 事前学習：心理査定演習Ⅰを振り返り、心理査定に関する基本的知識を復習しておく。(2時間) 事後学習：関連することを調べ、質問すること。(2時間)</p> <p>第2回：さまざまな投射法から学ぶ(1) 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)</p> <p>第3回：さまざまな投射法から学ぶ(2) 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)</p> <p>第4回：ロールシャッハテストの概説と施行法 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)</p> <p>第5回：コーディング解説 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)</p> <p>第6回：コーディング演習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)</p> <p>第7回：ロールプレイによる施行演習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)</p> <p>第8回：構造一覧表解説 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)</p> <p>第9回：構造一覧表作成演習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)</p> <p>第10回：解釈の基礎(1) 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)</p> <p>第11回：解釈の基礎(2) 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)</p> <p>第12回：結果の整理と報告書の書き方 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)</p>					

第13回：アセスメントの実際：テストバッテリー

事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)

事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)

第14回：アセスメントの実際：事例検討

事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)

事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)

第15回：まとめ

事前学習：これまでの演習を復習しておく。(2時間)

事後学習：授業の到達目標に達しているかを確認する。(2時間)

①ロールシャッハについては、テキストにそって予習・復習を十分行っておくことが望ましい。

②テストバッテリーについて学ぶ際に、臨床心理査定演習Ⅰ（前期科目）で学んだ知能テスト・パーソナリティテストなどについての知識が必要なので、予習を十分に行っておくことが望ましい。

成績評価方法

授業への参加状況や与えられた課題についての報告・発表などを勘案した平常点（70%）、及び各テストを実践的に試行・分析したレポート等（30%）により評価する。

成績評価基準

- ・性格検査の代表的なテストについて、その理論や適用、実施法について理解し、説明できるか。
- ・臨床や実習機関において使用頻度の高いテストについては、実践的に使用ができるか。

テキスト、参考図書

- ・ロールシャッハ・ワークブック（第5版） J.E.エクスナー著 中村紀子、津川律子、西尾博行訳 金剛出版 2003
- ・ロールシャッハの解釈 J.E.エクスナー著 中村紀子、野田昌道監訳 金剛出版 2002

その他（受講上の注意）

各種の心理検査についてテスト（器具）の取り扱いには慎重にし、また被検査者のデータの管理や情報の守秘については厳重であること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理基礎実習 I			担当教員	吉水 ちひろ、坂井 祐円	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-PR-2121	1 単位	1 年前期	実習	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
心理臨床における実践的な能力を育成する。					

授 業 の 内 容					
事例についての討議やロールプレイの演習等を通して、臨床心理実践の中核となるインテーク面接、心理臨床面接の考え方を学ぶとともに、基礎的な臨床心理実践能力を高める。合わせて、ケースカンファレンス、スーパーヴィジョンの意義や方法について学び、臨床心理専門家としての自己課題の明確化を目指す。					
授 業 の 達 成 目 標					
①自ら学ぼうとする主体的な態度を有している。 ②心理臨床実践のための基本的姿勢を獲得する。					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
1：オリエンテーション 2：スーパーヴィジョンの基本的な構造について (M1, M2 合同) 3：心理臨床の学び方 4：セラピストの基本的態度 5：臨床的関わりと治療構造① 6：臨床的関わりと治療構造② 7：インテーク面接の基本的構造と応答について① 8：インテーク面接の基本的構造と応答について② 9：インテーク面接の基本的構造と応答について③ 10：インテーク面接の流れと見立て① 11：インテーク面接の流れと見立て② 12：インテーク面接の流れと見立て③ 13：プレイセラピーの基礎① 14：プレイセラピーの基礎② 15：まとめと振り返り 附属心理臨床センターでの実践実習と関連づけて体験的理解を行うこと。 適宜実習で挙げられるテーマに沿った文献を読み、各自の知識を増やすこと。					
成 績 評 価 方 法					
平常点 (50%)、レポート (50%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、附属心理臨床センターでの活動状況などを総合して判断します。)					
成 績 評 価 基 準					
①課題への取り組みや授業での発言など、自ら学ぼうとする主体的な態度を有しているか。 ②心理臨床実践のための基本的姿勢が獲得できているか。 以上の2点を重視する。					
テ キ ス ト 、 参 考 図 書					
適宜、紹介する。					
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)					
心理臨床実践に携わるものとして、必要な倫理的配慮を行い、個人情報保護については十分な留意を行うこと。					
オ フ ィ ス ア ワ ー					
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。					

臨床心理基礎実習Ⅱ			担当教員	渡辺 克徳、坂井 祐円	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-PR-2122	1単位	1年後期	実習	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基礎科目群					
求める学習成果(教育目標)					
心理臨床における実践的な能力を育成する。					

授 業 の 内 容					
ケースについての討議やロールプレイの演習等を通して、臨床心理実践の中核となるインテーク面接、心理臨床面接などについての構造についての理解を深めるとともに、基礎的な面接能力を高める。あわせて、スーパービジョンやケースカンファレンス等の意義や方法について学び、心理臨床実践者としての自己の課題の明確化を目指す。					
授 業 の 達 成 目 標					
心理臨床実践を行う者としての基本的姿勢を獲得すること。 心理臨床実践を行うにあたっての基本的面接技法を獲得すること。					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
<p>1：オリエンテーション 事前学習：シラバスを熟読すること、テキストを購入して、概観すること。 事後学習：ビデオ機器の取り扱い方を習得すること。</p> <p>2：継続面接の基本的構造と対応について 事前学習：実践実習の事例について、「面接構造ほか」の観点から考察すること。 事後学習：(担当者) 逐語記録を作成すること。 (担当者外) ビデオを見て、「両価性」「正したい反射」「心理的抵抗」の場面を探すこと。</p> <p>3：面接初期の問題と対応について① 事前学習：実践実習の事例について、「ラポールほか」の観点から考察すること。 事後学習：(担当者) 逐語記録を作成すること。 (担当者外) ビデオを見て、「両価性」「正したい反射」「心理的抵抗」の場面を探すこと。</p> <p>4：面接初期の問題と対応について② 事前学習：実践実習の事例について、「インフォームド Consentほか」の観点から考察すること。 事後学習：(担当者) 逐語記録を作成すること。 (担当者外) ビデオを見て、「MI精神」が発揮された場面を探すこと。</p> <p>5：面接初期の問題と対応について③ 事前学習：実践実習の事例について、「見立てほか」の観点から考察を深めること。 事後学習：(担当者) 逐語記録を作成すること。 (担当者外) ビデオを見て、「MI精神」が発揮された場面を探すこと。</p> <p>6：事例検討会での発表の意義と方法について 事前学習：事例検討会で発表することの意義について、体験をもとに省察すること。 事後学習：(担当者) 逐語記録を作成すること。 (担当者外) ビデオを見て、「OARS」が現れた場面を探すこと。</p> <p>7：面接中期の問題と対応について① 事前学習：実践実習の事例について、「アセスメントほか」の観点から考察を深めること。 事後学習：(担当者) 逐語記録を作成すること。 (担当者外) ビデオを見て、「OARS」が現れた場面を探すこと。</p> <p>8：面接中期の問題と対応について② 事前学習：実践実習の事例について、「支援目標ほか」の観点から考察を深めること。 事後学習：(担当者) 逐語記録を作成すること。 (担当者外) ビデオを見て、「EPE」が現れた場面を探すこと。</p> <p>9：面接中期の問題と対応について③ 事前学習：実践実習の事例について、「技法ほか」の観点から考察を深めること。 事後学習：(担当者) 逐語記録を作成すること。 (担当者外) ビデオを見て、「EPE」が現れた場面を探すこと。</p>					

- 10：面接後期の問題と対応について①
 事前学習：実践実習の事例について、「キャンセルほか」の観点から考察を深めること。
 事後学習：(担当者) 逐語記録を作成すること。
 (担当者外) ビデオを見て、「チェンジトーク・維持トーク」が現れた場面を探すこと。
- 11：面接後期の問題と対応について②
 事前学習：実践実習の事例について、「連携ほか」の観点から考察を深めること。
 事後学習：(担当者) 逐語記録を作成すること。
 (担当者外) ビデオを見て、「チェンジトーク・維持トーク」が現れた場面を探すこと。
- 12：面接後期の問題と対応について③
 事前学習：実践実習の事例について、「変化ほか」の観点から考察を深めること。
 事後学習：(担当者) 逐語記録を作成すること。
 (担当者外) ビデオを見て、「維持トークへの対応」ができた場面を探すこと。
- 13：面接の終結における対応について①
 事前学習：実践実習の事例について、「終結ほか」の観点から考察を深めること。
 事後学習：(担当者) 逐語記録を作成すること。
 (担当者外) ビデオを見て、「維持トークへの対応」が現れた場面を探すこと。
- 14：面接の終結における対応について②
 事前学習：実践実習の事例について、「引き継ぎほか」の観点から考察を深めること。
 事後学習：(担当者) 逐語記録を作成すること。
 (担当者外) ビデオを見て、「コミットメント言語」が現れた場面を探すこと。
- 15：基礎実習のまとめと振り返り
 事前学習：この実習で身につけたことと、これから身につけたいことを省察する。
 事後学習：レポート課題の作成。
- 附属心理臨床センターでの実践実習の内容と関連付けながら理解すること。
 適宜実習で挙げられるテーマに沿った文献を読み、各自の知識を増やすこと。

成績評価方法

平常点 (50%)、レポート (50%)
 平常点は、授業への参加状況、受講態度、附属心理臨床センターでの活動状況などを総合して判断します。
 レポートは自身の逐語記録の一部を書き換えて、理想的なMI面接のシナリオを作成することとします。

成績評価基準

心理臨床実践を行う者としての基本的姿勢が獲得できているか。
 心理臨床実践を行うにあたっての基本的面接技法が獲得できているか。

テキスト、参考図書

適宜、紹介する。
 北田雅子・磯村毅 (2016) 『医療スタッフのための動機づけ面接法 逆引きMI学習帳』
 (株) 医歯薬出版 2,800円+税 ISBN978-4-263-23680-2

その他(受講上の注意)

心理臨床実践に携わるものとして、必要な倫理的配慮を行い、個人情報の保護については十分な留意を行うこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心身医学特論			担当教員	岸本 寛史	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-MD-2121	2単位	1・2年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。					

授 業 の 内 容					
<p>心理療法の基礎である、治療構造、病態水準についても事例に則して論じる。 DSMの背景と限界についても論じる。 心身症について概説し、心身症に対する心理療法的なアプローチについて、実際の事例に添いながら話す。 心理療法の過程における身体症状の意味について考える 心と体の関係について考えるため、痛みを取り上げて、身体的側面と心理的な側面の両面から論じる。 心身症の病態や心理療法の手がかりを、バウムテスト、風景構成法、夢、MSSMなどのイメージを通して、考えていく。 無意識的身体心像の概念について、実例を挙げながら論じる 神経精神分析学の方法を示す がん患者に対する心理療法的アプローチについて論じる。</p>					
授 業 の 達 成 目 標					
<p>治療構造の意義を実感する。 病態水準について理解する。木村・笠原の分類とDSMとを対比させ、それぞれの特徴と限界について理解する。 また、てんかん圏・安永の中心気質についての知識を得る。 心身症の概念を把握する。痛みの心理的な側面と身体的な側面について知識をもち、両者を統合した視点を得る。 バウムテスト、風景構成法、MSSMなどの技法を体験し、その治療促進的な要因について理解する。 上記表現療法的媒体を用いた心身症の治療についてのイメージを得る。 夢の意義について、心理学的な理論と神経科学の知見の双方から論じられるようになる。 がん患者への心理療法的なアプローチを行う上で留意すべき点について把握する。 夢を用いた心理療法がどのような形で展開していくかについての概観を得る 神経精神分析学における方法論について理解する。</p>					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
<p>第1回：治療構造論 事前学習：授業前に治療構造について調べておく。参考文献『癌と心理療法』が参考になる（2時間） 事後学修：テキスト等の見直しや、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること。（2時間）</p> <p>第2回：心理療法における見立てと病態水準 事前学習：授業前に見立てと病態水準について調べておく。参考文献『緩和のこころ』が参考になる（2時間） 事後学修：授業で示した事例についてレポートをまとめる。（2時間）</p> <p>第3回：心身症概説 事前学習：事前に心身症とは何かを調べ質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学修：資料の見直しや、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること。（2時間）</p> <p>第4回：痛みの身体的側面、心理的側面 事前学習：授業前に『迷走する緩和ケア』第2章を読み、痛みの心身的側面について考えておく。（2時間） 事後学修：授業で示した事例についてレポートにまとめる。（2時間）</p> <p>第5回：バウムテスト 事前学習：授業前に『バウムテスト入門』第1－4章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学修：授業で示した事例についてレポートにまとめる。（2時間）</p> <p>第6回：風景構成法 事前学習：授業前に風景構成法について調べておく。（2時間） 事後学修：授業で学んだことをレポートにまとめる。（2時間）</p> <p>第7回：MSSM 事前学習：授業前にMSSMの方法について調べておくこと。参考文献『MSSMへの招待』が参考になる。（2時間） 事後学修：授業で示した事例についてレポートにまとめる。（2時間）</p>					

- 第8回：夢の身体的基盤
 事前学習：授業前に『迷走する緩和ケア』第8章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
 事後学修：テキスト等の見直しや、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問する。(2時間)
- 第9回：夢を通した心身症へのアプローチ
 事前学習：授業前に『迷走する緩和ケア』第8章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
 事後学修：授業で示した事例についてレポートにまとめる。(2時間)
- 第10回：無意識的身体心像
 事前学習：授業前に無意識的身体心像について調べておく。参考文献『癌と心理療法』が参考になる。(2時間)
 事後学修：資料等の見直しや、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること。(2時間)
- 第11回：神経精神分析学の方法
 事前学習：授業前に『迷走する緩和ケア』第5章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
 事後学修：テキスト等の見直しや、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問する。(2時間)
- 第12回：がん患者に対する心理療法的アプローチ(1) 枠
 事前学習：授業前に『迷走する緩和ケア』第1章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
 事後学修：授業で示した事例について、レポートにまとめる。(2時間)
- 第13回：がん患者に対する心理療法的アプローチ(2) 見立て
 事前学習：授業前に見立てについて自分の考えをまとめておくこと。(2時間)
 事後学修：授業で示した事例について、レポートにまとめる。(2時間)
- 第14回：がん患者に対する心理療法的アプローチ(3) ナラティブ・アプローチ
 事前学習：授業前にナラティブ・アプローチについて調べ質問項目をまとめておく。『迷走する緩和ケア』第3章、第4章が参考になる。(2時間)
 事後学修：授業で示した事例について、レポートにまとめておくこと。(2時間)
- 第15回：心身症に対する表現療法的アプローチ
 事前学習：授業前に表現療法について質問項目をまとめておくこと。(2時間)
 事後学修：資料等の見直しや、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること。(2時間)

成績評価方法

レポート(70%) 平常点(30%)
 平常点は授業への参加状況、事例への積極的なコメントなどを総合して判断する。

成績評価基準

具体的な事例に関して、自分なりに病態水準と見立てを述べられるか。
 バウムテスト・風景構成法・MSSMの治療促進的な側面を分析できるか。
 心身症の心理療法的アプローチにおいて留意すべき点が理解できているか。
 夢の身体的基盤と心理療法における意義を説明できるか。
 無意識的身体心像について説明できるか。
 がん患者に対する心理療法的アプローチにおける留意点を説明できるか。

テキスト、参考図書

テキスト：
 岸本寛史(2018)『迷走する緩和ケア』誠信書房
 岸本寛史(2015)『バウムテスト入門』誠信書房
 また、資料を配布する。
 参考文献：
 岸本寛史(2015)『緩和ケアという物語』創元社
 岸本寛史(2004)『緩和のこころ』誠信書房
 岸本寛史(1999)『癌と心理療法』誠信書房
 カール・コッホ(1957)(岸本・中島・宮崎訳、2010)『バウムテスト第3版』誠信書房
 岸本寛史編(2011)『臨床バウム』誠信書房
 山中康裕・岸本寛史(2011)『コッホの『バウムテスト第3版』を読む』創元社
 岸本寛史・山愛美編(2013)『臨床風景構成法』誠信書房
 岸本寛史編(2015)『ニューロサイコアナリシスへの招待』誠信書房
 細川佳博・山中康裕編(2017)『MSSMへの招待』創元社

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

発達心理学特論			担当教員	竹村 明子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-ED-2111	2単位	1・2年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
発達や教育に関連する専門的知識を習得する。					

授 業 の 内 容					
本講義の前半では、生涯発達に関する多くの理論的枠組みについて学び、人間の多様性や可塑性に関して理解を深める。 後半では、各発達段階の特徴と心理的問題について学び、その知見を基にディスカッションを行う。					
授 業 の 達 成 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要な生涯発達心理学の理論について説明することができる。 ・ 各発達段階の特徴と直面しやすい問題について理解することができる。 ・ 人間の加齢に伴う変化について、生涯発達心理学的視点を基に考察することができる。 					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
本講義では、授業ごとに担当を決め、予め提示された内容について担当者にまとめて発表をしてもらう					
第1回：発達心理学とは 事前学習：発達関連の書籍等を読み、疑問や興味を持って授業に臨むこと(2時間) 事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること(2時間)					
第2回：ライフサイクルの理論 事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を 読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること(2時間)					
第3回：乳児期の発達 事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を 読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること(2時間)					
第4回：乳児期の発達に関連する問題 事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を 読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること(2時間)					
第5回：幼児期の発達 事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を 読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること(2時間)					
第6回：幼児期の発達に関連する問題 事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を 読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること(2時間)					
第7回：児童期の発達 事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を 読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること(2時間)					
第8回：児童期の発達に関連する問題 事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を 読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること(2時間)					
第9回：青年期の発達 事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を 読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること(2時間)					

第9回：青年期の発達

事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を
読み質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること（2時間）

第10回：青年期の発達に関連する問題

事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を
読み質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること（2時間）

第11回：成人期の発達

事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を
読み質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること（2時間）

第12回：成人期の発達に関連する問題

事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を
読み質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること（2時間）

第13回：高齢期の発達

事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を
読み質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること（2時間）

第14回：高齢期の発達に関連する問題

事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を
読み質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること（2時間）

第15回：生涯発達心理学的視点

事前学習：事前に配布された資料の内容について、担当者は発表の準備をし、担当でない者は内容を
読み質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：授業の内容について見直し、わからないところは図書館で調べたり担当教員に質問すること（2時間）

成績評価方法

発表（50%） 授業時におけるディスカッションへの参加度（50%）で総合評価する

成績評価基準

- ・ 主要な生涯発達心理学の理論について説明することができるか。
- ・ 各発達段階の特徴と直面しやすい心理的問題について説明することができるか。
- ・ 人間の発達について生涯発達心理学的視点を基に考察し、自分の意見を述べることができるか。

テキスト、参考図書

テキストは授業の中で紹介する

参考文献：荻野美佐子（著）発達心理学特論 放送大学教育振興会 ISBN978-4-595-14041-9

参考文献：渡辺弥生・榎本淳子（編）「発達と臨床の心理学」ナカニシヤ出版 ISBN978-4-7795-0653-6

その他（受講上の注意）

討論に参加できるように生涯発達心理学に関する基礎知識を習得しておくこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)			担当教員	後藤 智子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-ED-2121	2単位	1・2年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
発達や教育に関連する専門的知識を習得する。					

授 業 の 内 容					
いじめ・不登校など、現代の学校教育場面における児童生徒の様々な問題について概論する。また、スクールカウンセラーとして活動するための基本的な知識と実践方法について、ロールプレイを通して学ぶ。さらに、スクールカウンセリングを巡る様々な問題について調べ、発表および討論を行うことにより、問題意識を深め、自ら主体的に学ぶ態度を養う。					
授 業 の 達 成 目 標					
学校現場およびスクールカウンセラーの役割について理解する。また、スクールカウンセラーとして活動するための基本的知識と実践力を身につける。					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
<p>第1回：学校教育現場における臨床教育学および臨床心理学の役割 事前学習：授業前にテキスト第1章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間）</p> <p>第2回：スクールカウンセリングの発展と現状 事前学習：授業前にテキスト第2章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間）</p> <p>第3回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（1）不登校 事前学習：授業前にテキスト第5・6章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間）</p> <p>第4回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（2）いじめ 事前学習：授業前にテキスト第7章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間）</p> <p>第5回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（3）発達障碍 事前学習：授業前にテキスト第10章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間）</p> <p>第6回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（4）子どもの貧困と虐待 事前学習：授業前にテキスト第9章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間）</p> <p>第7回：スクールカウンセリングの実際（1）法と倫理 事前学習：学校教育に関連する法規について調べ、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間）</p> <p>第8回：スクールカウンセリングの実際（2）緊急支援 事前学習：授業前にテキスト第12章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間）</p> <p>第9回：スクールカウンセリングの実際（3）ロールプレイ（枠組み作り） 事前学習：クライアント役を設定し、役作りを準備しておく（2時間） 事後学習：自分および相手方の演じたクライアントの問題改善・解決について考察する（2時間）</p> <p>第10回：スクールカウンセリングの実際（4）ロールプレイ（スタンスとアセスメント） 事前学習：授業前にテキスト第3・10章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：自分および相手方の演じたクライアントの問題改善・解決について考察する：（2時間）</p> <p>第11回：スクールカウンセリングの実際（5）ロールプレイ（学校内外の連携） 事前学習：授業前にテキスト第8章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：自分および相手方の演じたクライアントの問題改善・解決について考察する（2時間）</p> <p>第12回：スクールカウンセリングの実際（6）ストレスマネジメント 事前学習：授業前にテキスト第4章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業における体験学習を踏まえて、参考文献を読む（2時間）</p>					

第13回：スクールカウンセリングの課題（1）発表と質疑応答

事前学習：これまでの講義を踏まえて発表テーマを設定し、関連する文献資料を調べる（2時間）

事後学習：自分および他の受講生の発表・質疑応答・討論を踏まえてレポートを作成する。（2時間）

第14回：スクールカウンセリングの課題（2）発表と質疑応答

事前学習：これまでの講義を踏まえて発表テーマを設定し、関連する文献資料を読む（2時間）

事後学習：自分および他の受講生の発表・質疑応答・討論を踏まえてレポートを作成する。（2時間）

第15回：スクールカウンセリングの課題（3）発表と質疑応答

事前学習：これまでの講義を踏まえて発表テーマを設定し、レジюмеを作成する（2時間）

事後学習：自分および他の受講生の発表・質疑応答・討論を踏まえてレポートを作成する。（2時間）

*事前学習として、日頃から学校教育や生徒指導・教育相談、特別支援教育、スクールカウンセリングに関する報道等について関心を持ち、問題意識をもって講義に臨んでください。また、事後学習として、講義で扱ったテーマについて、文献等に当たって知識を拡充し理解を深め、研究発表に備えてください。

成績評価方法

発表と課題レポート（50%）授業中のロールプレイ・演習と小レポート（20%）平常点（30%）

・平常点は、授業への参加状況、受講態度、コメント用紙の提出状況等を総合して判断します。

成績評価基準

・将来のスクールカウンセラーとして、基本的な知識と技法を備えているか。

・将来の心理臨床家としての自覚と責任感に裏打ちされた主体的態度を身につけているか。

テキスト、参考図書

卯月研次・後藤智子著『心とふれあう教育相談』北樹出版（2015）、他、適宜、資料を配布します。

その他（受講上の注意）

質問や疑問がありましたら、t-goto@baika.ac.jpまで、ご連絡ください。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会病理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)			担当教員	三脇 康生、松嶋 健	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-SC-2111	2単位	1・2年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
社会や集団、組織の中での心理を理解するための知識を習得する。					

授 業 の 内 容	
日本社会の大きな変質を説明し、そこから生じる様々な孤立(が原因で生じる犯罪や病)の問題について、対処の方法を海外の情報も得ながら考える。	
授 業 の 達 成 目 標	
日本社会の特徴を理解し公認心理師・臨床心理士として何が出来るのか、その社会的役割について考察し実践できる能力を身につける。	
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
<p>第1回：現代社会の特徴と病理概観1 松嶋健 事前学習：現代社会に関係する新聞記事、ネット情報を集める。テキスト375-404ページを熟読する。本を読みたい人は、現代社会に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)</p> <p>第2回：現代社会の特徴と病理概観2 松嶋健 事前学習：現代社会に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、現代社会に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)</p> <p>第3回：現代社会の特徴と病理概観3 松嶋健 事前学習：現代社会に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、現代社会に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)</p> <p>第4回：現代社会の特徴と病理概観4 松嶋健 事前学習：現代社会に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、現代社会に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)</p> <p>第5回：現代社会の特徴と病理概観5 松嶋健 事前学習：現代社会に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、現代社会に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)</p> <p>第6回：現代社会の特徴と病理概観6 松嶋健 事前学習：現代社会に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、現代社会に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)</p> <p>第7回：現代社会の特徴と病理概観7 松嶋健 事前学習：現代社会に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、現代社会に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)</p> <p>第8回：自傷・解離 松嶋健 事前学習：自傷・解離に関する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、自傷・解離に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)</p> <p>第9回：医療観察法 三脇康生 事前学習：医療観察法に関する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、医療観察法に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)</p>	

第10回：社会的ひきこもりとニート 三脇康生

事前学習：社会的ひきこもりとニート、ネット情報を集める。テキスト225-244ページを熟読する。

本を読みたい人は、社会的ひきこもりとニートに関する本を図書館で探すとよい。(2時間)

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)

第11回：現代社会と暴力、ハラスメント社会1 三脇康生

事前学習：現代社会と暴力、ハラスメント社会、ネット情報を集める。本を読みたい人は、社会的ひきこもりとニートに関する本を図書館で探すとよい。(2時間)

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)

第12回：現代社会と暴力、ハラスメント社会2 三脇康生

事前学習：現代社会と暴力、ハラスメント社会、ネット情報を集める。本を読みたい人は、社会的ひきこもりとニートに関する本を図書館で探すとよい。(2時間)

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)

第13回：家族機能の変質と病理 三脇康生

事前学習：家族機能、ネット情報を集める。本を読みたい人は、家族機能に関する本を図書館で探すとよい。(2時間)

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)

第14回：東北大震災 三脇康生

事前学習：東北大震災、ネット情報を集める。本を読みたい人は、東北大震災に関する本を図書館で探すとよい。(2時間)

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)

第15回：理想自我と自我理想 三脇康生

事前学習：理想自我と自我理想、ネット情報を集める。本を読みたい人は、理想自我と自我理想に関する本を図書館で探すとよい。(2時間)

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)

成績評価方法

平常点50パーセント レポート50パーセント

(平常点は、授業への参加状況・受講態度・質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

公認心理師・臨床心理士として社会にかかわる方法を学ぶが、その方法を身に付けたかどうかが基準となる。

テキスト、参考図書

①三脇康生他編「医療環境を変える一制度を使った精神療法の実践と思想」(京都大学学術出版会)

その他(受講上の注意)

私語は厳禁

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践)			担当教員 森 俊之	
講義コード CP-SC-2141	単 位 2単位	配当年次 1年後期	開講形態 講義	選択区分 選択
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群				
求める学習成果(教育目標)				
社会や集団、組織の中での心理を理解するための知識を習得する。				

授 業 の 内 容	
私たちが初めて出会い、もっとも密接に関わる社会集団は「家族」であろう。親子関係や夫婦間の問題、高齢者の介護問題、教育や学校或いは社会との関係など、家族が抱える多くの問題や課題を取り上げ、家族システム論の視点から整理し、これらの問題に対する家族療法や家族心理教育などの援助方法の理論と技法を解説する。	
授 業 の 達 成 目 標	
現代社会における家族関係の心理的な仕組みや家族が抱える様々な心理的問題について理解を深め、家族への心理的援助の専門的な知識を身に付ける。これらの知識を実際の問題に適用し、家族への具体的な心理的援助が行えるようになることを目標とする。	
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：現代社会の中の家族 事後学習：授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめる。(4時間)	
第2回：家族心理学の基礎理論 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)	
第3回：家族心理臨床とは 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)	
第4回：家族療法の理論① 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)	
第5回：家族療法の理論② 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)	
第6回：家族・夫婦関係の心理査定① 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)	
第7回：家族・夫婦関係の心理査定② 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)	
第8回：家族・夫婦療法の技法① 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)	
第9回：家族・夫婦療法の技法② 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。(1時間)	

- 第10回：家族・夫婦療法の技法③
 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく（3時間）
 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。（1時間）
- 第11回：家族臨床ケース検討①
 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく（3時間）
 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。（1時間）
- 第12回：家族臨床ケース検討②
 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく（3時間）
 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。（1時間）
- 第13回：地域社会における家族支援①
 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく（3時間）
 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。（1時間）
- 第14回：地域社会における家族支援②
 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく（3時間）
 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。（1時間）
- 第15回：まとめ
 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、レポートにまとめておく（3時間）
 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたレポートに加筆修正を加えて、レポートをまとめ直す。（1時間）

成績評価方法

レポート課題（60%）、平常点（40%）
 （平常点は、授業への参加状況、討論内容により総合的に評価する。）

成績評価基準

- ・現代社会における家族の問題について、家族心理学的立場から考えることができるか。
- ・家族に対する見立てや介入を行うための力が身についたか。
- ・家族療法および夫婦療法の理論や技法を説明できるか。

テキスト、参考図書

テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。
 参考図書
 日本家族研究・家族療法学会編（2013）. 家族療法テキストブック 金剛出版

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)			担当教員	三脇 康生
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CP-MD-2111	2 単位	1・2 年前期	講義	選択
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群				
求める学習成果(教育目標)				
医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。				

授 業 の 内 容	
精神医学の歴史、病気の盛衰、現代のメンタルヘルス問題について深く理解する	
授 業 の 達 成 目 標	
公認心理師・臨床心理士として医療分野で働ける力を身につける、カウンセリングのときに知っておくべき病気の特徴を理解する	
授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：精神医学のシステム構築の歴史と現状の説明 事前学習：精神医学に関係する新聞記事、ネット情報を集める。テキスト①の1-75ページを熟読する。テキスト②の72-134ページを熟読する。本を読みたい人は、精神医学の歴史に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)	
第2回：精神医学の歴史1 事前学習：精神医学に関係する新聞記事、ネット情報を集める。テキスト①の1-75ページを熟読する。本を読みたい人は、精神医学の歴史に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)	
第3回：精神医学の歴史2 事前学習：精神医学に関係する新聞記事、ネット情報を集める。テキスト①の1-75ページを熟読する。本を読みたい人は、精神医学の歴史に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)	
第4回：クレペリン 事前学習：クレペリンに関係する新聞記事、ネット情報を集める。テキスト①の105-143ページを熟読する。103-182ページを熟読する。本を読みたい人は、クレペリンに関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)	
第5回：ヤスパース 事前学習：ヤスパースに関係する新聞記事、ネット情報を集める。テキスト①の105-143ページを熟読する。本を読みたい人は、ヤスパースに関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)	
第6回：統合失調症とは1 事前学習：統合失調症に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、統合失調症に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)	
第7回：統合失調症とは2 事前学習：統合失調症に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、統合失調症に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)	
第8回：気分障害 事前学習：気分障害に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、気分障害に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)	
第9回：現代型鬱 事前学習：現代型鬱に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、現代型鬱に関する本を図書館で探すとよい。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)	

第10回：フロイト

事前学習：フロイトに関する新聞記事、ネット情報を集める。テキスト①の76-102ページを熟読する。本を読みたい人は、フロイトに関する本を図書館で探すとよい。(2時間)

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)

第11回：ジャネ

事前学習：ジャネに関する新聞記事、ネット情報を集める。テキスト①の76-102ページを熟読する。本を読みたい人は、ジャネに関する本を図書館で探すとよい。(2時間)

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)

第12回：精神分析に終わりはあるか

事前学習：精神分析に関する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、精神分析に関する本を図書館で探すとよい。(2時間)

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)

第13回：ラカン

事前学習：ラカンに関する新聞記事、ネット情報を集める。テキスト①323-325ページを熟読する。本を読みたい人は、ラカンに関する本を図書館で探すとよい。(2時間)

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)

第14回：反精神医学

事前学習：反精神医学に関する新聞記事、ネット情報を集める。テキスト①251-287ページを熟読すること。本を読みたい人は、反精神医学に関する本を図書館で探すとよい。(2時間)

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)

第15回：文化精神医学

事前学習：文化精神医学に関する新聞記事、ネット情報を集める。テキスト②の329-404ページを熟読する。本を読みたい人は、文化精神医学に関する本を図書館で探すとよい。(2時間)

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。(2時間)

成績評価方法

平常点50% レポート50%

(平常点は、授業への参加状況・受講態度・質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

毎回、松本雅彦先生の本をまず購読するため、その内容をレジュメすること、そのレジュメと最終期末レポートを書く。その際に、精神医学のあるべき姿を思い浮かべられるかどうかを見る。

テキスト、参考図書

①松本雅彦「精神病理学とは何だろうか」星和書店②三協康生他編「医療環境を変える一制度を使った精神療法の実践と思想」(京都大学学術出版会)

その他(受講上の注意)

私語は厳禁

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)			担当教員	水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-MD-2141	2単位	1・2年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。					

授 業 の 内 容					
発達障害(主として学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム)に関する専門書「the learning brain」のなかから、脳の発育・発達、数学・読み書き・学習全般に関連する脳機能と障害、社会的発達・情動的発達の障害に関する章を中心に解説をする。					
授 業 の 達 成 目 標					
脳の発達過程について理解する。発達障害の障害メカニズムと臨床像について理解する。発達障害の心理的特徴とそれをふまえた支援方法について考察する。					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
<p>第1回：ガイダンス(テキストのショートレポートを作成する章や節割り分担) テキストは参考図書の一部をコピーして配布 事後学習：序論、目次の精読、(4時間)</p> <p>第2回：発達障害の概要と定義 事前学習：発達障害の定義に関するレジュメ(ショートレポート)作成と提出(2時間) 事後学習：授業中に重点的に解説した部分の整理、質問項目をまとめる(2時間)</p> <p>第3回：The Developing Brain①：脳の発達① 事前学習：発達期の脳に関する章の抜粋部分を熟読、担当者はショートレポート作成(2時間) 事後学習：授業中に重点的に解説した部分の整理、質問項目をまとめる(2時間)</p> <p>第4回：The Developing Brain②：脳の発達② 事前学習：発達期の脳に関する章の抜粋部分を熟読、担当者はショートレポート作成(2時間) 事後学習：授業中に重点的に解説した部分の整理、質問項目をまとめる(2時間)</p> <p>第5回：The Mathematical Brain①：数学のための脳機能① 事前学習：数学にもちいられる脳機能と障害に関する章の抜粋部分を熟読、担当者はショートレポート作成(2時間) 事後学習：授業中に重点的に解説した部分の整理、質問項目をまとめる(2時間)</p> <p>第6回：The Mathematical Brain②：数学のための脳機能② 事前学習：数学にもちいられる脳機能と障害に関する章の抜粋部分を熟読、担当者はショートレポート作成(2時間) 事後学習：授業中に重点的に解説した部分の整理、質問項目をまとめる(2時間)</p> <p>第7回：The Literate Brain①：読み書きのための脳機能① 事前学習：読み書きにもちいられる脳機能に関する章の抜粋部分を熟読、担当者はショートレポート作成(2時間) 事後学習：授業中に重点的に解説した部分の整理、質問項目をまとめる(2時間)</p> <p>第8回：The Literate Brain②：読み書きのための脳機能② 事前学習：読み書きにもちいられる脳機能に関する章の抜粋部分を熟読、担当者はショートレポート作成(2時間) 事後学習：授業中に重点的に解説した部分の整理、質問項目をまとめる(2時間)</p> <p>第9回：Learning to Read and its Difficulties①：読みの学習とその障害① 事前学習：読み障がい(日本の事例)について調べ、担当者はショートレポート作成(2時間) 事後学習：授業中に重点的に解説した部分の整理、質問項目をまとめる(2時間)</p> <p>第10回：Learning to Read and its Difficulties②：読みの学習とその障害② 事前学習：読み障がい(海外の事例)について調べ、担当者はショートレポート作成(2時間) 事後学習：授業中に重点的に解説した部分の整理、質問項目をまとめる(2時間)</p> <p>第11回：Disorders of Social-emotional Development：社会的発達・情動的発達の障害① 事前学習：社会性発達に関する章の抜粋部分を熟読、担当者はショートレポート作成(2時間) 事後学習：授業中に重点的に解説した部分の整理、質問項目をまとめる(2時間)</p>					

- 第12回：Disorders of Social-emotional Development：社会的発達・情動的発達の障害②
 事前学習：情動性発達に関する章の抜粋部分を熟読、担当者はショートレポート作成（2時間）
 事後学習：授業中に重点的に解説した部分の整理、質問項目をまとめる（2時間）
- 第13回：Disorders of Social-emotional Development：社会的発達・情動的発達の障害③
 事前学習：社会性・情動性発達に関する章の抜粋部分を熟読、担当者はショートレポート作成（2時間）
 事後学習：授業中に重点的に解説した部分の整理、質問項目をまとめる（2時間）
- 第14回：障害に応じた支援
 事前学習：発達障害支援の具体的方法について調べて担当者ショートレポート（2時間）
 事後学習：授業中に重点的に解説した部分の整理、質問項目をまとめる（2時間）
- 第15回：まとめ
 事前学習：各回のショートレポートを熟読、質問内容をまとめる（4時間）

各回の講義を受講した後、教科書の当該部分をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、問題意識をもって授業に臨んでください。

成績評価方法

レポート（90%） 平常点（10%）
 （平常点は、授業への参加状況、参加態度などを総合して判断します。）

成績評価基準

脳の発達過程について理解できたか。発達障害の障害メカニズムと臨床像について理解できたか。発達障害の心理的特徴とそれをふまえた支援方法について考察することができたか。

テキスト、参考図書

参考図書：『the learning brain - lesson for education』 Sarah-Jayne Blakemore and Uta Frith、Blackwell Publishing（2005）

その他（受講上の注意）

「the learning brain」は英文です。授業参加に際して、毎回予習として日本語全訳と要約を作成し、提出してもらいます。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-SC-2131	2単位	1・2年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
社会や集団、組織の中での心理を理解するための知識を習得する。					

授 業 の 内 容					
人間は様々な社会的状況の中で生き、他者や社会、集団や組織と相互に影響し合っている。複雑化する社会の中で目の前の問題をどう認知し、働きかけていくべきかは重要な問題となる。対人認知、意思決定、合理的判断と不合理、直感と論理、シュールリスティクスとバイアス、社会的ジレンマなど人間の心理的、行動的特性を理解しながら、日本社会における組織の在り方について理解を深める。また、実証的研究方法を考察するとともに、課題解決するためにはどうすべきか議論する。					
授 業 の 達 成 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・人間の行動特性について学ぶとともに、日本社会における産業、組織の在り方について概観する。 ・組織の中で起こる問題と個人に与える心理的影響について学ぶ。 ・論文の読解、討論、批判的視点について学ぶ。 					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
<p>第1回：オリエンテーション 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題について、自分なりの意見をまとめておくこと（2時間）</p> <p>第2回：組織とは何か 事前学習：授業前に組織心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）</p> <p>第3回：人財育成について 事前学習：授業前に人材育成に関する書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）</p> <p>第4回：モチベーションについて（1） 事前学習：授業前にモチベーションについて関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）</p> <p>第5回：モチベーションについて（2） 事前学習：授業前にモチベーションについて関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）</p> <p>第6回：リーダーシップについて（1） 事前学習：授業前にリーダーシップについて関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）</p> <p>第7回：リーダーシップについて（2） 事前学習：授業前にリーダーシップについて関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）</p> <p>第8回：意思決定について（1） 事前学習：授業前に意思決定について関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）</p> <p>第9回：意思決定について（2） 事前学習：授業前に集団意思決定について関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）</p> <p>第10回：事例発表とディスカッション、コメント 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）</p> <p>第11回：事例発表とディスカッション、コメント 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）</p>					

第12回：事例発表とディスカッション、コメント
 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間）
 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）

第13回：事例発表とディスカッション、コメント
 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間）
 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）

第14回：事例発表とディスカッション、コメント
 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間）
 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）

第15回：事例発表とディスカッション、コメント
 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間）
 事後学修：授業で課された課題についてまとめる（2時間）

講義前・講義後において理解を深めるよう努力すること。関連論文・参考文献等講義内にて指示する。

成績評価方法

レポート（50%）、発表の内容やディスカッションへの参加状況（50%）

成績評価基準

- ・産業組織に対する理解を深めることができたか。
- ・現実社会での個人の心理、行動を理解し、研究と結び付けて考えることができるか。

テキスト、参考図書

講義の中で指示する。

その他（受講上の注意）

担当箇所について発表する際にはレジメにまとめ、人数分用意しておくこと。1週間前にはレジメを提出しておくこと。発表者の意見に耳を傾け、積極的に議論に参加すること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理教育学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2141	2単位	1・2年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容					
心理教育とは、心の健康教育すなわち自身のメンタルヘルスについて理解と予防を促したり、また障害や精神疾患を持つ人の家族や周囲の人々あるいは社会に対し障害や精神疾患等についての理解を促すものである。本講義においては、メンタルヘルスの維持や発達障害や無気力に対する対応を中心に、心の健康教育の理論と実践を講義する。					
授 業 の 達 成 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康教育の理論を理解する。 ・心の健康教育を実践する能力を身につける。 					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
<p>第1回：心の健康教育の意義 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(4時間)</p> <p>第2回：現代社会における心の健康における問題 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(2時間)</p> <p>第3回：社会における発達障害者が抱える問題 事前学習：発達障害に関する定義と特徴について調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(2時間)</p> <p>第4回：心の健康教育の理論Ⅰ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。(2時間) 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(2時間)</p> <p>第5回：心の健康教育の理論Ⅱ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。(2時間) 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(2時間)</p> <p>第6回：心の健康教育の理論Ⅲ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。(2時間) 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(2時間)</p> <p>第7回：心の健康教育の実践例Ⅰ 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(2時間)</p> <p>第8回：心の健康教育の実践例Ⅱ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。(2時間) 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(2時間)</p> <p>第9回：発達障害に関する心理教育Ⅰ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。(2時間) 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(2時間)</p> <p>第10回：発達障害に関する心理教育Ⅱ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。(2時間) 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(2時間)</p>					

<p>第11回：社会に対する発達障害の理解促進の実践例 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。(2時間) 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(2時間)</p> <p>第12回：無気力(学習性無力感) 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(2時間)</p> <p>第13回：教育場面における心理教育の実践 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(2時間)</p> <p>第14回：職場における心理教育の実践 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。(2時間)</p> <p>第15回：各自の発表 事前学習：自分で決めたテーマで心理教育の発表を行うので、準備すること。(4時間)</p>
成績評価方法
授業内での発表(60%)と討議の姿勢(40%)
成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康教育の理論を理解し説明できるか。 ・心の健康教育を実践する能力を身につけたか。
テキスト、参考図書
<p>テキストは使用せず、その都度資料等を配布する。次回講義に必要な論文は各回ごとに指示する。 参考図書は適宜紹介する。</p>
その他(受講上の注意)
各自に適宜発表を課するため、事前準備を怠らないようにすること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間学特論			担当教員	田代 俊孝、坂井 祐円	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-PH-2111	2単位	1・2年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 基幹科目群					
求める学習成果(教育目標)					
哲学や宗教など幅広い視点から人間を考察し、仏教とカウンセリングのかかわりを理解する。					

授 業 の 内 容					
慈悲とは抜苦与楽であり、仏教は縛られた心を開放し、苦から救うものである。カウンセリングとのかかわりも深い。両者の関係を考察する。特に、仏教サイドから、仏教によって救われて「自己」を取り戻した不登校や不治の病の人のケースを具体的に検証し、縛られた心がどのように開放されていったかを見る。また、特に親鸞浄土教の救いの立場を教義的な面、実践的な面からも考察する。					
授 業 の 達 成 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教による心の解放、救いの論理を理解する。 ・ 仏教の智慧を自分の生活の中で実践し、不登校などの課題に対処できるようになる。 ・ 終末期の人に寄り添い、生死の苦を超えるデス・カウンセラーについて理解を深め、できれば対処できるようになる。 					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
<p>第1回：仏教とカウンセリング 事前学習：『動く仏教 実践する仏教-仏教とユング心理学』(法蔵館 2005)を読んで要点を整理してくる。そのほか、河合隼雄著『ユング心理学と仏教』(岩波書店)などを読んで、仏教と心理学の関係について理解を深めてくる。(2時間) 事後学習：仏教とカウンセリングのかかわりを整理する。(2時間)</p> <p>第2回：不登校児の心を開いた『歎異抄』 事前学習：「不登校について」図書館などで参考書を読んで調べてくる。(2時間) 事後学習：不登校児の苦悩を理解する。(2時間)</p> <p>第3回：不登校についての事例研究(1)(討論) 事前学習：田代俊孝編『いのちを育む・教育』(法蔵館1997)の中の「不登校の心を開いた歎異抄」(後半)を読んで、内容を理解してくる。(2時間) 事後学習：事例を分析してくる。(クライアントの主訴と背景)(2時間)</p> <p>第4回：不登校についての事例研究(2)(討論) 事前学習：田代俊孝編『いのちを育む・教育』(法蔵館1997)の中の「不登校の心を開いた歎異抄」(後半)を読んで、内容を理解してくる。(2時間) 事後学習：事例を分析してくる。(クライアントの主訴と背景)(2時間)</p> <p>第5回：『歎異抄』について 事前学習：いずれかの『歎異抄』の解説書を読んで、何が書かれている書か理解してくる。(2時間) 事後学習：『歎異抄』の内容を理解して、それがクライアントにどう響いたかを考える。(2時間)</p> <p>第6回：デスカウンセリング-アメリカのデススタディからの展開- 事前学習：田代俊孝著『仏教とビハラー運動』(法蔵館1999)の中の「第一章アメリカにおけるデスエデュケーション事情」をよく読んで内容を理解してくる。(2時間) 事後学習：デスカウンセリングとは何かをノートに整理して理解する。(2時間)</p> <p>第7回：デスカウンセリング-生と死を考える- 事前学習：田代俊孝著『仏教とビハラー運動』(法蔵館1999)の中の「第二章デスカウンセリングの試み」をよく読んで内容を理解してくる。(2時間) 事後学習：デスカウンセリグとは何かをノートに整理して理解する。(2時間)</p> <p>第8回：生死の問題についての事例研究(鈴木章子)(討論) 事前学習：事例をよく読んで理解してくる。(2時間) 事後学習：鈴木章子がどのように死を受容し、超えていったかを理解し、ノートに整理する。(2時間)</p> <p>第9回：生死の問題についての事例研究(平野恵子)(討論) 事前学習：事例をよく読んで理解してくる。(2時間) 事後学習：平野恵子がどのように死を受容し、超えていったかを理解し、ノートに整理する。(2時間)</p>					

- 第10回：生死の問題についての事例研究（高橋啓子ほか）（討論）
 事前学習：事例をよく読んで理解してくる。（2時間）
 事後学習：高橋啓子らがどのように死を受容し、超えていったかを理解し、ノートに整理する。（2時間）
- 第11回：生死の問題についての事例研究（浅原才市）（討論）
 事前学習：事例をよく読んで理解してくる。（鈴木大拙著『才市』を参考に）（2時間）
 事後学習：浅原才市がどのように死を受容し、超えていったかを理解し、ノートに整理する。（2時間）
- 第12回：親鸞における心の解放－凡夫の自覚と二種深信－
 事前学習：『観無量寿経』の王舎城物語について調べてくる。（2時間）
 事後学習：「凡夫の自覚と二種深信」の教義についてノートに整理する。（2時間）
- 第13回：親鸞における心の解放－三願転入－
 事前学習：『教行信証』（化巻）の三願転入について調べてくる。（2時間）
 事後学習：「三願転入」の教義についてノートに整理する。（2時間）
- 第14回：親鸞における心の解放－自然法爾－
 事前学習：親鸞の『末灯鈔』や『歎異抄』に述べられる「自然法爾」という概念について調べてくる。（2時間）
 事後学習：「自然法爾」の教義についてノートに整理する。（2時間）
- 第15回：宗教とカウンセリングについて討論する。（討論と発表）
 事前学習：「宗教とカウンセリングについて」自分の考えを発表できるようにまとめてくる（2時間）。
 事後学習：討論の内容を踏まえて「宗教とカウンセリングについて」2000字くらいのレポートにして提出する。（2時間）

成績評価方法

レポート（50%） 平常点（50%）
 ※平常点は、授業への参加状況・感想文・学生発表（プレゼンテーション）などを総合して判断する。

成績評価基準

- ・ 仏教とカウンセリングの関係が理解できたか。
- ・ 仏教の智慧を自分の人生に応用実践できるよう、自分の中で深く解釈しているか。
- ・ 縛られた心が解放されていくことが、仏教の救いつまり、「解脱」であることをよく理解し、自分自身においても、そのような学びと実践が具体的にできるようになったかどうか。

テキスト、参考図書

教科書 同朋大学文学研究科編『動く仏教 実践する仏教－仏教とユング心理学－』
 法蔵館 2005 ¥1200（受講生数の分一括購入します）

参考書 田代俊孝著『仏教とビハーラ運動－死生学入門－』法蔵館 1999
 田代俊孝編『いのちを育む 教育』法蔵館 1997
 河合隼雄著『ユング心理学と仏教』岩波書店 1998
 田代俊孝著『ビハーラ往生まのすすめ－悲しみからのメッセージ－』法蔵館 2005

その他（受講上の注意）

特になし

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

グループアプローチ特論			担当教員	鎌田 道彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2221	2単位	1・2年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 応用科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容	
グループアプローチの理論および技法についての学習を行う。 グループアプローチの体験学習を行う。	
授 業 の 達 成 目 標	
グループアプローチについて理論的に理解すること グループアプローチについて体験的に理解すること	
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
<p>第1回：オリエンテーション 事前学習：参考図書を読み、授業で学びたいことを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容に関するテーマについて参考図書で復習をしておくこと。(2時間)</p> <p>第2回：グループアプローチとは 事前学習：参考図書を読み、グループアプローチについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業の復習のため、授業内容に照らし合わせ参考図書を読んでおくこと。(2時間)</p> <p>第3回：グループアプローチの技法① 事前学習：参考図書を読み、グループアプローチの技法について調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業の復習のため、授業内容に照らし合わせ参考図書を読んでおくこと。(2時間)</p> <p>第4回：グループアプローチの技法② 事前学習：参考図書を読み、グループアプローチの技法について調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業の復習のため、授業内容に照らし合わせ参考図書を読んでおくこと。(2時間)</p> <p>第5回：グループアプローチの技法③ 事前学習：参考図書を読み、グループアプローチの技法について調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業の復習のため、授業内容に照らし合わせ参考図書を読んでおくこと。(2時間)</p> <p>第6回：グループ体験① 事前学習：グループ体験にむけての参加動機について内省しておくこと。(2時間) 事後学習：グループ体験の振り返りと記録を取ること。(2時間)</p> <p>第7回：グループ体験② 事前学習：グループ体験にむけての自己の内省作業を行っておくこと。(2時間) 事後学習：グループ体験の振り返りと記録を取ること。(2時間)</p> <p>第8回：グループ体験③ 事前学習：グループ体験にむけての自己の内省作業を行っておくこと。(2時間) 事後学習：グループ体験の振り返りと記録を取ること。(2時間)</p> <p>第9回：グループ体験④ 事前学習：グループ体験にむけての自己の内省作業を行っておくこと。(2時間) 事後学習：グループ体験の振り返りと記録を取ること。(2時間)</p> <p>第10回：グループ体験⑤ 事前学習：グループ体験にむけての自己の内省作業を行っておくこと。(2時間) 事後学習：グループ体験の振り返りと記録を取ること。(2時間)</p> <p>第11回：グループ体験⑥ 事前学習：グループ体験にむけての自己の内省作業を行っておくこと。(2時間) 事後学習：グループ体験の振り返りと記録を取ること。(2時間)</p> <p>第12回：グループ体験⑦ 事前学習：グループ体験にむけての自己の内省作業を行っておくこと。(2時間) 事後学習：グループ体験の振り返りと記録を取ること。(2時間)</p>	

第13回：グループ体験⑧

事前学習：グループ体験にむけての自己の内省作業を行っておくこと。(2時間)

事後学習：グループ体験の振り返りと記録を取ること。(2時間)

第14回：グループ体験⑨

事前学習：グループ体験にむけての自己の内省作業を行っておくこと。(2時間)

事後学習：グループ体験の振り返りと記録を取ること。(2時間)

第15回：まとめ

事前学習：グループ体験全体をまとめておくこと。(2時間)

事後学習：グループ体験についての自己の振り返りを行うこと。(2時間)

提示した文献を受講者で分担し、まとめてくること

成績評価方法

レポート50%、平常点50%

(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。)

成績評価基準

グループアプローチについて理論的に理解できているかどうか

グループアプローチについて体験的に理解できているかどうか

テキスト、参考図書

参考図書：

村山 正治 (編著)「自分らしさを認めるPCAグループ入門」「新しい事例検討法PCAGIP入門」

野島 一彦 (編著)「グループアプローチ (現代のエスプリ)」

その他(受講上の注意)

全期間参加すること。なお、グループ体験は合宿形式で行う。事前にグループ体験で、どのような体験をしたいかなどの目的を考えて参加すること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

学校臨床心理学特論			担当教員	倉光 修	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-ED-2211	2単位	1・2年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 応用科目群					
求める学習成果(教育目標)					
学校臨床心理学に関する基礎的知識を習得し、内界表現について経験的に学ぶ。					

授 業 の 内 容					
学校臨床心理学の実践領域に当たるスクールカウンセラーの活動について解説し、その実践上の留意点について述べる。また、心理療法における一つの統合的アプローチを紹介する。それに関連して、物語図版を用いた模範的カウンセリングや粘土造形に基づく内界表現などを通して、実際のアプローチの機微を習得できるようにする。さらに、実際の事例について検討する。					
授 業 の 達 成 目 標					
スクールカウンセリングの留意点を理解する。 言語的・非言語的表出と潜在的な葛藤や願望、心理的課題との対応を体験的に学び、理解する。					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
授業の計画及び授業外の学修方法					
第1回：学校臨床心理学とスクールカウンセリングの留意点 事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。(2時間)					
第2回：質疑応答 1 事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。(2時間)					
第3回：一つの統合的アプローチ 事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。(2時間)					
第4回：細部の技法 事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。(2時間)					
第5回：質疑応答 2 事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。(2時間)					
第6回：物語図版を用いたカウンセリングの実習1 (応答作成) 事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。(2時間)					
第7回：物語図版を用いたカウンセリングの実習2 (グループ討議) 事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。(2時間)					

第8回：紙粘土造形による内界表現1（作品制作）

事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。（2時間）

事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。（2時間）

第9回：紙粘土造形による内界表現2（心理的課題の推測）

事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。（2時間）

事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。（2時間）

第10回：紙粘土造形による内界表現3（グループ討議）

事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。（2時間）

事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。（2時間）

第11回：質疑応答3

事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。（2時間）

事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。（2時間）

第12回：質疑応答4

事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。（2時間）

事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。（2時間）

第13回：事例検討1

事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。（2時間）

事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。（2時間）

第14回：事例検討2

事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。（2時間）

事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。（2時間）

第15回：事例検討3

事前学習：講義が始まる前までに、参考図書として示した本などを熟読し、学校における臨床心理活動に対する知識をノートにまとめておくこと。（2時間）

事後学習：講義終了後、講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めておくこと。（2時間）

成績評価方法

期末レポート（50%）平常点（50%）

（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成績評価基準

スクールカウンセリングの留意点を理解できているか。

言語的・非言語的表出と潜在的な葛藤や願望、ないし心理的課題との対応を、体験を踏まえて理解できているか。

テキスト、参考図書

倉光修『学校臨床心理学・地域援助特論』（放送大学教育振興会）（放送大学ビデオ 2014）

倉光修『カウンセリングと教育』（誠信書房）

村山正治・滝口俊子『現場で役立つスクールカウンセリングの実際』（創元社）

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理療法特論			担当教員	千野 美和子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2211	2単位	1・2年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 応用科目群					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容					
<p>これから実際に面接を担当するにあたって、個人心理療法の原則となる考え方や基本姿勢を学ぶ。まず、心理療法の歴史の5つの流れを概観する。そして心理療法の目的、心理療法における枠組み、初回面接、見立てなど、心理療法の基本的な考えと姿勢、次に心理療法の一つである遊戯療法、それに伴う母親面接、イメージを扱う箱庭療法、心理テストとの関わり、最後に心理療法の訓練であるスーパービジョン、事例研究について取り上げる。</p> <p>授業方法は、受講生の発表と話し合いを中心とする。後半の何回かは、基本姿勢を体験的に理解するために実習を行う。</p>					
授 業 の 達 成 目 標					
心理療法の基本的な考えや態度を理解すること。心理療法についての自分の考えを持つことができること。面接を担当する心構えを身につけること。					
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法					
<p>授業の計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（心理療法の歴史の5つの流れを概観する）</p> <p>第2回：心理療法の目指すもの（河合隼雄『心理療法序説』第一章Pp.1-28）</p> <p>事前学習：第2回の授業テーマについて提示した文献を受講生が読み、自分の考えや疑問点をまとめたものをレジュメにして授業で発表する。発表を元に話しあい、考えを深める。（2時間）</p> <p>事後学習：第2回の授業で行われた振り返りレポートを作成し次週提出。（2時間）</p> <p>第3回：初めての面接（千野美和子「初めの面接——初心の者がケースに出会うとき」京都光華女子大学大学院カウンセリングセンター研究紀要7号1-9）</p> <p>事前学習：第3回の授業テーマについて提示した文献を受講生が読み、自分の考えや疑問点をまとめたものをレジュメにして授業で発表する。発表を元に話しあい、考えを深める。（2時間）</p> <p>事後学習：第3回の授業で行われた振り返りレポートを作成し次週提出。（2時間）</p> <p>第4回：初回面接（伊藤良子「初回面接」河合隼雄『臨床心理学2アセスメント』第4章Pp.99-122）</p> <p>事前学習：第4回の授業テーマについて提示した文献を受講生が読み、自分の考えや疑問点をまとめたものをレジュメにして授業で発表する。発表を元に話しあい、考えを深める。（2時間）</p> <p>事後学習：第4回の授業で行われた振り返りレポートを作成し次週提出。（2時間）</p> <p>第5回：見立て（土居健郎『方法としての面接』第6章Pp.63-83；河合隼雄『心理療法序説』第八章Pp.179-205）</p> <p>事前学習：第5回の授業テーマについて提示した文献を受講生が読み、自分の考えや疑問点をまとめたものをレジュメにして授業で発表する。発表を元に話しあい、考えを深める。（2時間）</p> <p>事後学習：第5回の授業で行われた振り返りレポートを作成し次週提出。（2時間）</p> <p>第6回：心理テストとの関わり（千野美和子「心理テスト—心理療法との関係で考える—」カウンセリングセンター研究紀要6号1-9）</p> <p>事前学習：第6回の授業テーマについて提示した文献を受講生が読み、自分の考えや疑問点をまとめたものをレジュメにして授業で発表する。発表を元に話しあい、考えを深める。（2時間）</p> <p>事後学習：第6回の授業で行われた振り返りレポートを作成し次週提出。（2時間）</p> <p>第7回：心理療法における枠組み（東山紘久『心理療法と臨床心理行為』第四章Pp.77-103）</p> <p>事前学習：第7回の授業テーマについて提示した文献を受講生が読み、自分の考えや疑問点をまとめたものをレジュメにして授業で発表する。発表を元に話しあい、考えを深める。（2時間）</p> <p>事後学習：第7回の授業で行われた振り返りレポートを作成し次週提出。（2時間）</p> <p>第8回：傾聴と共感（ロージャズ「パースナリティ変化の必要にして十分な条件」『ロージャズ全集4サイコセラピーの過程』Pp.117-139）</p> <p>事前学習：第8回の授業テーマについて提示した文献を受講生が読み、自分の考えや疑問点をまとめたものをレジュメにして授業で発表する。発表を元に話しあい、考えを深める。（2時間）</p> <p>事後学習：第8回の授業で行われた振り返りレポートを作成し次週提出。（2時間）</p>					

<p>第9回：関係について(千野美和子「関係をつくること」カウンセリングセンター研究紀要第8号13-20) 事前学習：第9回の授業テーマについて提示した文献を受講生が読み、自分の考えや疑問点をまとめたものをレジュメにして授業で発表する。発表を元に話しあい、考えを深める。(2時間) 事後学習：第9回の授業で行われた振り返りレポートを作成し次週提出。(2時間)</p> <p>第10回：箱庭療法(千野美和子「箱庭の『療法』としての意味」仁愛大学附属心理臨床センター紀要第3号35-42) 事前学習：第10回の授業テーマについて提示した文献を受講生が読み、自分の考えや疑問点をまとめたものをレジュメにして授業で発表する。発表を元に話しあい、考えを深める。(2時間) 事後学習：第10回の授業で行われた振り返りレポートを作成し次週提出。(2時間)</p> <p>第11回：スーパーヴィジョンと事例研究について(河合隼雄『心理療法序説』第十一章Pp.261-288) 事前学習：第11回の授業テーマについて提示した文献を受講生が読み、自分の考えや疑問点をまとめたものをレジュメにして授業で発表する。発表を元に話しあい、考えを深める。(2時間) 事後学習：第11回の授業で行われた振り返りレポートを作成し次週提出。(2時間)</p> <p>第12回：遊戯療法(弘中正美「遊戯療法」大塚義孝他監修『臨床心理学全書9臨床心理面接技法2』第1章Pp.1-54) 事前学習：第12回の授業テーマについて提示した文献を受講生が読み、自分の考えや疑問点をまとめたものをレジュメにして授業で発表する。発表を元に話しあい、考えを深める。(2時間) 事後学習：第12回の授業で行われた振り返りレポートを作成し次週提出。(2時間)</p> <p>第13回：親面接(上記の第6節Pp.47-54) 事前学習：第13回の授業テーマについて提示した文献を受講生が読み、自分の考えや疑問点をまとめたものをレジュメにして授業で発表する。発表を元に話しあい、考えを深める。(2時間) 事後学習：第13回の授業で行われた振り返りレポートを作成し次週提出。(2時間)</p> <p>第14回：実習その1 事前学習：実習はカウンセリングのロールプレイ(15分、授業時間外)をICレコーダーに録音。その逐語録をレジュメにして、授業内で検討。そのため学修時間として(ロールプレイのための準備、実際のロールプレイ、ロールプレイの逐語録作成、発表レジュメ作成。(5時間) 事後学習：授業内で検討したことを振り返る。(1時間)</p> <p>第15回：実習その2 事前学習：実習はカウンセリングのロールプレイ(15分、授業時間外)をICレコーダーに録音。その逐語録をレジュメにして、授業内で検討。そのため学修時間として(ロールプレイのための準備、実際のロールプレイ、ロールプレイの逐語録作成、発表レジュメ作成。(5時間) 事後学習：授業内で検討したことを振り返る。(1時間)</p>
成績評価方法
毎回の授業中の発表と意見交換(60%) 授業後のレポート(40%)
成績評価基準
心理療法の基本的な考え方や基本的姿勢を理解して自分の考えを述べることができるか。
テキスト、参考図書
使用する文献については授業計画の通り。
その他(受講上の注意)
文献を読んで出てきた素朴な疑問や問題を出し合い、話し合いを通して、理解を深めていきたい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理実習 I (心理実践実習)			担当教員	稲木康一郎、三脇 康生、森 俊之、 吉水ちひろ、渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-PR-2911	10単位	1年～2年	実習	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 応用科目群					
求める学習成果(教育目標)					
心理臨床における実践的な能力を育成する。					

授 業 の 内 容	
<p>実際の心理臨床の現場に実習生として参画し、直接、利用者の方との関わりも体験しながら、心理臨床の実践を学ぶ。具体的には、本学の附属心理臨床センターにおける実習と、大学外の実習協力施設(医療領域、福祉領域、教育領域の3施設)における実習を行う。</p>	
授 業 の 達 成 目 標	
<ul style="list-style-type: none"> ・心理支援を要する者等とコミュニケーションをとり、心理検査や心理面接、地域支援等を行うことができる ・心理支援を要する者等を理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成することができる ・心理支援を要する者へのチームアプローチができる ・多職種連携及び地域連携をすることができる ・公認心理師・臨床心理士としての職業倫理及び公認心理師としての法的義務を理解する 	
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
<p>1年次および2年次の2年間を通して、下記のとおり、本学の附属心理臨床センターにおける実習と、大学外の実習協力施設(医療領域、福祉領域、教育領域の3施設)における実習を行う。大学外の実習については、現地での実習に加えて、大学内において事前・中間・事後指導も行う。</p> <p>●附属心理臨床センターにおける実習(300時間)</p> <p>1年次、2年次を通して、下記の内容を行う。</p> <p>○インテーク面接陪席 1年次前期の中頃より随時、インテーク面接への陪席を体験する。インテーカーの指導のもとインテーク報告書を作成し、インテークカンファレンスにて発表する。</p> <p>○ケース担当 1年次後期より、特定のクライアントのケース担当者となり、継続的にカウンセリングや遊戯療法等を担当する。担当ケースについて、ケース報告をまとめてケースカンファレンスにおいて発表する。</p> <p>○ケースカンファレンスへの参加 1年次及び2年次を通して、定期的に行われるケースカンファレンスに参加する。自分の担当ケースについてケース報告をするとともに、他者の報告ケースに対しても討論に参加し、ケースの理解を深める。</p> <p>○受付、備品管理等のセンター業務担当 受付や備品管理等のセンター業務を当番制により担当する。窓口や電話を通してクライアント等と関わることを通して、基礎的なコミュニケーション力を高める。各相談室の備品管理や清掃などを通して、相談施設としての環境に対する理解を深める。</p> <p>○地域向け公開講座等の運営 地域向けに開催される公開講座の事前準備や当日運営に関わることで、地域支援のあり方に対する理解を深める。</p> <p>●医療領域に関する学外施設での実習(事前事後指導を含め50時間)</p> <p>原則として2年次の5～7月の時期に、実習協力施設である個々の病院・診療所の実状に応じて、下記の内容を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院組織の理解 ・医師の診察への陪席 ・心理検査、各種心理療法、デイケア等への陪席 ・入院患者等との関わり ・ケースカンファレンス等への参加 など 	

- 福祉領域に関する学外施設での実習（事前事後指導を含め50時間）
原則として2年次の8～9月の時期に、実習協力施設である個々の児童相談所の実状に応じて、下記の内容を行う。
 - ・児童相談所組織の理解
 - ・心理検査やインテーク面接等への陪席
 - ・判定票等の作成指導
 - ・一時保護所入所児童等との関わり
 - ・処遇会議等への陪席 など
- 教育領域に関する学外施設での実習（事前事後指導を含め50時間）
原則として2年次の10～1月の時期に、実習協力施設である個々の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の実状に応じて、下記の内容を行う。
 - ・学校組織の理解
 - ・スクールカウンセラー業務の陪席
 - ・相談室・保健室登校の児童生徒との関わり
 - ・授業や部活動場面における児童生徒の観察
 - ・職員会議等への陪席 など

それぞれの心理臨床現場で体験する様々な事柄と、これまで学んだきた専門的知識を関連づけて考察を深めること。

成績評価方法

附属心理臨床センターでの実習に関しては、陪席やケース担当へのエントリー状況、カンファレンス等での発言状況などを総合して評価する（40%）。外部の実習協力施設での実習に関しては、参加状況や取り組み姿勢、報告書などによって総合的に評価する（各20%）。

成績評価基準

- ・心理支援を要する者等とコミュニケーションをとり、心理検査や心理面接、地域支援等を行うことができるか
- ・心理支援を要する者等を理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成することができるか
- ・心理支援を要する者へのチームアプローチについて実践できるか
- ・多職種連携及び地域連携について実践できるか
- ・公認心理師・臨床心理士としての職業倫理及び公認心理師としての法的義務を説明できるか

テキスト、参考図書

参考図書：下山晴彦（編）「臨床心理学全書4 臨床心理実習論」 誠信書房 2006年
そのほか、随時、紹介する。

その他（受講上の注意）

実際の心理臨床実践の場を体験することになるため、それぞれの施設の指導者の指示に従い、それぞれの施設にふさわしい姿勢や行動を心がけること。とくに、当該施設や利用者に関する情報の守秘については厳守すること。一つ一つの実習の体験が、貴重な学びの場であることを自覚し、積極的かつ真摯な態度で臨むこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理実習Ⅱ (スーパービジョンプログラムを含む)			担当教員	森 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-PR-2921	1単位	1年～2年	実習	選択	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 応用科目群					
求める学習成果(教育目標)					
心理臨床における実践的な能力を育成する。					
授 業 の 内 容					
スーパービジョンプログラム規程に基づき、1年間に15時間(2年間に30時間)以上、大学が委嘱した学外のスーパーバイザーと一対一で面談し、自己分析や自身の担当するケースへの理解を深める。また、学会や研修会等に参加し、授業以外の場での学びの場を体験する。					
授 業 の 達 成 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンを定期的に受ける態度や習慣を身に付ける。 ・スーパービジョンを受けながら自身や自身のケースについて振り返りができる。 ・学会や研究会等の場で、ケースや研究について討論する態度や習慣を身に付ける。 					
授業の計画及び授業外の学習方法					
<p>次の2つの実践活動を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スーパービジョンプログラム 学外のスーパーバイザーのもとで、1年間で15時間、2年間で30時間のスーパービジョンを受ける。 具体的なスーパービジョンの日はスーパーバイザーと相談して、個々に決める。 スーパーバイザーは、年度の初めに決定する。 スーパービジョンを実施した後は定期的に実施記録を提出するとともに、年度末には1年間のスーパービジョンを振り返ったレポートを作成する。 ●学会・研究会等参加 指導教員と相談しながら、学会等に入会し、研究会や研修会などに参加する。 2年間で15時間以上の活動に従事する。 研究会等に参加後は、その都度、どのような活動に参加し、どのような学びがあったかに関するレポートを作成する。 臨床心理基礎実習ⅠⅡ、臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)、臨床心理研究演習、その他の講義科目での学びをもとに活動を行うことになるので、それぞれの授業をしっかりと修める。 					
成 績 評 価 方 法					
スーパービジョン実施記録(30%)、1年間のスーパービジョン体験を振り返るレポート(30%)、学会等に参加した後で提出するレポート(40%)をもとに総合的に評価する。					
成 績 評 価 基 準					
<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンを定期的に受けることができたか。 ・スーパービジョンを受けながら自身や自身のケースについて振り返りができたか。 ・学会や研究会等の場に、参加して議論ができたか。 					
テキスト、参考図書					
参考図書：下山晴彦(編)「臨床心理学全書4 臨床心理実習論」 誠信書房 2006年 そのほか、随時、紹介する。					
その他(受講上の注意)					
学外の人と交流する活動となるため、一般的な社会常識等、他者との関わり方に注意すること。					
オ フ ィ ス ア ワ ー					
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。					

臨床心理研究演習			担当教員	森 俊之、三脇 康生、水田 敏郎、 渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-RM-2211	4 単位	2 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 研究指導科目					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学に関する研究能力の基礎を培う					

授 業 の 内 容	
修士論文の作成にあたり、研究指導教員との議論等を通して、自分の研究課題を設定し、その課題を解決するための方法論等を検討する。	
授 業 の 達 成 目 標	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題意識をもち自らの研究課題を設定できる。 ・ 自分の研究課題に必要な研究方法を吟味し選択できる。 ・ 研究者として自分の考えを論理的に表現(論文執筆や口頭発表)できる。 	
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回～第30回：担当教員の進め方にしたがって、文献精読や議論等を進める。 担当教員の指導のもと、各自で自分の研究課題遂行に必要な活動(文献精読、調査、観察、実験など)に取り組む。	
成 績 評 価 方 法	
レポートや発表(50%) 平常点(50%) レポートや発表の形式は担当教員により異なる。また、平常点は、授業への参加状況や受講態度等を総合して判断する。	
成 績 評 価 基 準	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題意識から研究課題を設定できるか。 ・ 研究課題に必要な研究方法を吟味し選択できるか。 ・ 研究者として自分の考えを論理的に表現できるか。 	
テ キ ス ト 、 参 考 図 書	
担当教員の指示にしたがうこと。	
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)	
修士論文の作成にあたっては、自らの研究として積極的に取り組むとともに、指導教員と十分に議論しながら計画的に進めること。	
オ フ ィ ス ア ワ ー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	